

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 若松 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

##### 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

##### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

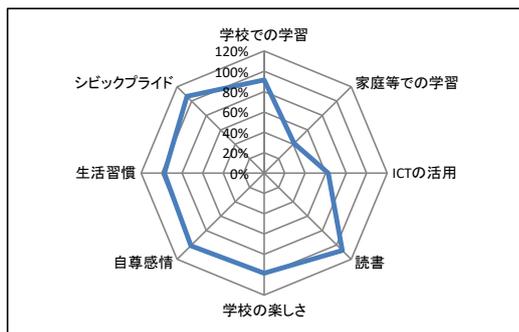
#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均と大差は見られないが、自分の考えをわかりやすく伝える力が十分ついているとは言えない。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く問題。	
	努力が必要な問題	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く問題。	

数学	全体的な傾向や特徴など	数学的な言葉の意味を覚えていない生徒や数学的な表現を用いて説明することを苦手としている生徒が多くみられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く問題。	
	努力が必要な問題	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する問題。	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均に対して大きく上回っている問題もみられるが、比較し、多面的、総合的に分析して解釈する力が十分ついているとは言えない。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
○	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと考えている生徒の割合が高く、全国平均を大きく上回っている。また、授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動もできている。
○	学校の授業時間以外に、平日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が全国平均より低く、特に土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強をしている生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。授業以外の学習について課題がある。
○	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合が多く、全国平均を上回っている。実際に今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合も多い。
○	「家庭学習においてICTを活用している」「家庭学習に日常的に取り組んでいる」と回答した割合が非常に低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、様々な教科の学習や家庭学習等でも積極的にICTを活用できるようにしていく。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

○学習内容の定着や理解の深化に向けて、生徒が授業中、また授業以外でも主体的に学習に取り組むことができるよう、各教科でICT機器の積極的、効果的な活用や学習プリント・課題などの更なる工夫・改善を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○5教科を中心に課題（宿題）やA Iドリルを活用し、個人で選択できる課題を出すなど、自主的な学びを支援することで、授業以外における学習習慣の定着につなげていく。また、ご家庭にも、保護者会や通信等で調査結果や状況をお知らせし、家庭学習の支援をお願いする。